

第410回番組審議会

1. 日時 平成18年5月16日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 14名

出席委員 11名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	委員	和田 利彦
	委員	梅村 俊男
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	千葉 則茂
	委員	佐藤 晴久
	委員	早瀬 藤二
	委員	増川 博之
	委員	嶋村 正
	委員	上野 克幸

欠席委員	副委員長	橋田 純一
	委員	山本 玲子
	委員	西郷 喜代子

社側出席者	松本 齊 (取締役副社長)
	新沼 栄喜 (専務取締役) 営業・編成担当
	石井 修平 (専務取締役) 事業・メディア戦略・ 広報・番組審議会担当
	阿部 孝夫 (常務取締役) 報道・制作担当
	高橋 甫和 (取締役技術局長) 技術担当
	鈴木 直志 (報道局専任局長)
	野田 喜代志 (制作局次長)
	廣嶋 文樹 (制作局制作部主任)
事務局	青山 尚之 (編成局長) 番組審議会事務局長
	高橋なおみ (編成局編成部主任)

4. 議 題

1. やぶかわ物語「～大西家、9年間の軌跡～」
4月29日（月）午後2時～2時55分放送
2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 審議内容

別紙のとおり

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」
(平成18年5月23日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、
審議の概要を放送。
- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

8. その他の参考資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見
- ・ タイムテーブル
- ・ 月間民放
- ・ BPO報告

〈議事の内容〉

事務局 定刻になりましたので審議会を始めます。きょうの議題は4月10日放送分のやぶかわ物語「～大西家、9年間の軌跡～」です。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員長 それでは、ご意見をお願いします。

委員 9年間を通してまとめているが、民間のテレビ局が、手間をかけて制作していることに好感が持てた。風景の映像で写真を額に入れたようなきれいなシーンがあり、番組後、藪川村を訪れてみたいと思った。子供たちの会話が非常に自然に撮れていると感じた。大西さん家族は、藪川村に来てすべてが良かったという内容でしたが、過疎の村で、暮らしの不便や自然の厳しさもあったのではないかと子供時代に豊かな感受性を育てる上に、自然とのふれあいや周りの人とのふれあいは、とても重要だと改めて感じる番組でした。東京の新橋でもずいぶん昔から子供が少なくなり、大都会における過疎化も一方では進んでいて、都市部に企業が集中するひずみが日本各地で見られる。そういう意味では弊社の工場で、新しいラインが出来て、増産して、関連企業の方が周辺に移住したり、地元の方の雇用機会に繋がれば、いい方向なのかなと思いました。ただ、企業が進出すると、自然が損なわれるデメリット面もある。いろいろ私どもには、考えさせられる番組でした。

委員 大西家の中で、長男の成長記録という感じを受けた。なぜ長男の追跡なのか、9年前にこれを計画した意図は何か、今回放映した目的などが分りにくかった。大西一家がどうして藪川を選んだのか？東京周辺にも田舎はあるのではないかとそしてこの春の転出理由もじっくりしない感じが残った。しかし一方では、ダイヤモンドダストの映像、四季の自然と人とのふれあい、自然との共生・共存の一面が紹介されたことは、興味深く、楽しめた。子供たちの放課後の道草、川遊び、山菜取りなどは、自分の子供時代と重なって大変興味深い場面でした。藪川の子供の少なさには改めて驚かされた。人は少ないとおのずと助け合い、支えあう姿勢が生まれ育つということが伝わりました。少数ゆえの良さというのは、友人・仲間を越えて、家族とも言える人々の繋がりという感じを与える一方、多数の中でもまれて伍していく体験がなくていいのかという心配も拭えなかった。少ないほうの可、多いほうの可、いずれも大切だと思いましたが、少ない方一方の提示になったのが、残念でした。藪川で生活している若い世代の実態とか、ご高齢者の存在性を伝えられる番組作りもあればいいのではないかと。

委員 長期間にわたり美しい映像や場면을捉えて、見ごたえがある番組だった。9年間追いつけることは、家族との信頼関係がなければ出来ないもので、非常に努力していて、いい内容に仕上がったと思う。ただ、何故一家が東京を離れたのか、何故蕨川を選んだのか、何故京都に戻ることになったのかなどの説明が、不明確で欲求不満が残った。長男の台詞が出来すぎのところがあり、このご両親は子供たちをいいところで育てて、強烈な思い出を残したいという明確なプランがあったような気がした。東京から引っ越してきた理由を教えて欲しい。一家を受け入れた地域、行政の良い点、悪い点が盛り込まれていれば良かったのではないか。

委員 蕨川の土地を紹介した映像が大変興味深かった。この番組のねらいは、大西家を通して、過疎であっても大自然の中で生きる素晴らしさを伝えたかったのではないかと思った。そういうねらいがあったとすると、残念ながら必ずしも伝わってはいなかった。過疎地の悲しさ、大自然の厳しさが印象に残って、出来れば季節の良い時期に大自然の中で生活を楽しんでいる場面などが中に組み込まれていれば、もっとねらいが伝わったのではないか。東京から引っ越すときに、何故蕨川を選んだかご主人に語ってもらいたかった。閉校になった分校の位置を画像で示して欲しかった。

委員 立派に成長した長男の言動など、全体的に感動した。移住者を取り上げる場合、都会と田舎という両極にあるところを対比することによって、いろいろな問題を浮きぼりにする手法上の構図があると思った。何故蕨川村を選んだのかが、番組の中で明確に出てこなかった。知人も友人もない本州一番の厳寒の地に来て、いずれは転居するのではないか？というような気がしてみましたので、京都に行くという結果は、予測できた感じだった。環境が人間を育てることを改めて実感した。両親が4人だけの学校に入れる不安があったのではないか？それを地域で支えて立派な子供に育ったのか？もう少し突っ込んで欲しかった。

委員 長期的な記録なので、その点が感心した。子供は順応性が高いので、どちらかというと大人が上手く生活していたのか、そちらにももう少し重点があってもよかったのではないか。テーマとして田舎と都会の比較がまだインパクトが強いというのは、少しショッキングなところがあり、まだまだ問題はあるのだなと思いました。「蕨川がたくましく育てた」というナレーションがテンプレート的で、気になった。

委員 テーマがとても分りやすく、焦点も子供に絞ったのは、よかったと思う。めりはりも利いていたし、映像的にも四季折々の状況がそれぞれに映っていた。番組の中で子供を含む蕨川の人たち、また長男を取り巻く教員など、岩手県人の素朴であたたかい人柄も表現されていた。撮影技術としても、転居してきた97年3月

から今年の映像を軸に過去の映像を効果的にダブらせて工夫していたと思う。

ただ、2回目に見ると印象が違い、一定の作為性を感じてしまった。ご主人の最後のコメントを聞いていると、否定はしていたが、最初から藪川に永住する気がなく、長男の高校進学ということもあり、転居するのではないかと感じられた。地元の人は、大西家が永住するというので、非常にあたたかく接していたと思うので、そういうところもあり、アナウンサーの「京都への転居が、家庭の事情での苦渋の選択」との説明だけでは、穿った見方をしてしまった。もし京都への転居がなかったら、どこまで追いかけたか聞いてみたい。

委員 藪川の持っている自然や、人間味が余すところなく盛り込まれた叙情的な作品で、大変すぐれた作品だと思った。ダイヤモンドダストの映像や水芭蕉、紅葉の岩洞湖もきれいに表現していて、時には明るく元気に、時には不安げな子供の表情が上手く画面に出て、力強い良い映像だった。9年間取材し続けた制作者のねばり強さが、この作品を生んだと思う。この9年間で小学校の入学式で始まって、中学校卒業、その間に学校が廃校になるという物語的な要素がきれいに入っていて、確かにドラマや小説的で少々作為的ともみられるが、起承転結がある終わり方だったと思う。善意に溢れた作品、心洗われる作品だったと思う。

委員 藪川の春夏秋冬の映像を取るためにも、かなりの時間と労力を費やしたと思います。大西家になぜスポットを当てたのか疑問に思った。やや間延びしたノスタルジックな感じがしたし、ナレーションも声の質に違和感があった。少子化、過疎化、日本の人口減問題を凝縮した社会問題番組か？都会に住む団塊の世代に、自然溢れる、ノスタルジー溢れるこういう自然にまた帰って住んでもらえないかとう、岩手の叫びがこもって入る良い番組。是非全国に放送して、団塊の世代に岩手の素晴らしさを訴えて、移住促進に繋がればいいのではないか。

委員 画像が非常に美しいし、ナレーションも聞きやすく、居心地が良く、きれいな番組だった。ただ、冬の厳しさ、過疎、生活の厳しさが、なかなか伝わってこない。あまりにきれい過ぎて、終わっているような気がした。取材のきっかけが分ればいいと思った。

委員長 整理してみると、

1. 滋賀出身の大西家が藪川にどういう目的できたのか明確ではなかった。
2. 大西家を取り上げた理由、追いかけていく理由、何を訴えたかったのか。
3. 京都に引っ越さなければ、取材は続けたか。
4. 映像はきれいだった。
5. 番組があまりにきれいにまとまりすぎていて、作為性がみられたのではないか。
6. 受け入れた地域の苦労、大西家の不安について伺いたい。

というところでしょうか。社側からお答え下さい。

社 側 まず取材のきっかけは、「ズームイン！朝」で、この春に小さい分校などで、ニュースがないかと電話調査したところ、東京から引っ越してくる大西さんを教えてもらい、取材交渉したということです。結局は、「夢見るピノキオ」という番組の1回分の放送として、夏前位に「やぶかわ絵日記」というタイトルで、放送しました。折角なので冬も撮ろうということで「パート2」、東京に久々に行ってみるということで、「パート3」と少しずつ溜まっていきました。そこで終わりだと思っ
てはいたのですが、どこかでまとめて放送したいと考えていたときに、昨年の秋連絡を取ってみると、大西さんが「引越しを考えている」と伺ったので、これを機会にまとめて放送することにしました。

なぜ藪川を選んだかということですが、大西さんが、田舎暮らしをしたいという目的で、情報誌などで探したそうです。藪川を含め3ヶ所位が候補に上がったのですが、藪川に来たら景色もきれいで気に入ったということです。この経緯は、最初の「やぶかわ絵日記」のときには説明していたのですが、何本か作っているうちに慣れてしまい、今回は説明が雑だったと考えています。

暮らしてみてもうどうだったかということは、当初はいろいろ問題が起きるだろうと予測していましたが、そういうことが全くなく、大西さんはやぶかわの生活にフィットしていたと思います。地域の人達とも上手く行っていたし、一番良かったのは、仕事が家で一人でコツコツするものだったので、生活面でゆとりがあったことだと思います。子供達も自然の中で暮らすことには抵抗がなかったので、藪川を去ることは残念がっていました。転居については、大西さんにもあまり説明しないで欲しいという要望もあったので、かなり視聴者には混乱させてしまったと思います。特に大きなドラマもなく、日常のささいな事柄を積み上げた番組でしたが、1時間にまとめて放送できたことは、良かったと思う。

委員長 他になにかありますでしょうか。では、事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。以上で番組審議会を終了いたします。